第 311 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2016 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「お母さんの生き方（２）」

先号で、私が小学校１年生の時の担任の先生であったサノ先生が、毎週、私の家を訪問してくださっていたことを書きました。

病気で、家を一歩も出ることができない母に、学校での私の様子を知らせることが目的でした。

しかし、いつしかサノ先生と母は、年齢のはなれた親友のような間柄になっていきました。

サノ先生はいつも、いらっしゃると真っ先に、母の仕事の進捗状況をたずねてこられたそうです。もはや、私の話なんてそっちのけです。

母もまた、サノ先生ご自身の話をききたがりました。

サノ先生と母は、「働くお母さん」という同志でした。

今から４０年も前のことです。当時、働くお母さんは、本当に少なかったのです。

ましてサノ先生は、４０年前の時点で、教職をつとめあげ、翌年、定年を迎えようとしていました。サノ先生が大学を卒業され、先生として赴任したのは、さらに４０年近く前ですから、今から８０年前の「働く女性」であったことになります。

女性が知的な仕事に就くことが、とても珍しかった時代です。女の子が四

年制大学を出ることさえ、珍しいことでした。

サノ先生の苦労談には、働く女性に厳しい時代であったことを物語る話が多くあったようです。

母は、次の時代を女性として生きなければならない私に、サノ先生の苦労談を伝える必要があると考えたのでしょう。サノ先生がお話しになったことを、正確に私に伝えました。

サノ先生は、こうおっしゃっていたそうです。

「今も、働く女性はたいへんです。社会は甘くありません。病気をされるまで音楽大学でつとめていらしたお母さまなら、よくご存じでしょう？　でもね、私のような人間にいわせれば、今はマシです。昔は本当にたいへんでした。時代がちがいます。周囲の理解もありません。私は子どもに教えることを生きがいとし、教員という職にしがみついてきました。その中で、結婚をし、子どもを二人、産みました。でも、私のように子どもを産んだあとも教員を続けることは、本当に困難なことだったのです。その証拠に、同僚の女性教員は皆、独身です」

何かを思い出したように、サノ先生は表情をゆがめます。

「私は、なかば意地のように、教員を続けてきました。でもね、母親としては、私、大きな顔はできません。二人の娘たちの小学校の入学式は出席できませんでした。たくさんあった保護者会も一度も行くことができませんでした。運動会も行けませんでした。学芸会も行けませんでした。授業参観も行けませんでした。だって、担任を持つ、っていうのは、そういうことじゃないですか？　自分の学級を放り出して、娘の学校に行けますか？」

サノ先生の目には、涙があふれ、今にもこぼれ落ちそうになりました。

「いつも娘たちは、悲しそうな顔をしていました。家に帰れば、娘のさびしそうな様子に気づかないフリをして、急いで夕食のしたくをしました。お風呂をわかしました。洗濯機をまわしました。私自身、くたくたでした。あまりにも疲れていて、一度、座ると、立ち上がれないことが分かっていました。だから、立ったまま食事をとりました。娘の顔をまっすぐ見ることもなく、娘の話に耳をかたむけることもなく、娘

を追い立てるようにして寝かせました。娘が寝てから、翌日の自分の授業の準備をしました。娘の宿題を見てやったこともありません。持ち物をチェックしてやったこともありません。自分の生徒たちの宿題は、毎日欠かさず見ていたのに・・・」

サノ先生の目は、真っ赤でした。

「娘たちは、よくいいました。お母さんは、お母さんの生徒と、私たちと、どっちが好きなの？　どっちが大事なの？って」

とうとう、サノ先生の目から涙があふれ出ます。

「私は、教師として職をまっとうしたと思っています。自分でいうのも変ですが、私はいつも評判の良い教師でした。親御さんから、たくさん感謝の言葉をいただきました。・・・でも・・・満たされませんでした。私は本当は、そんな上等な人間じゃないんです。だって私は、良い母親ではなかったんです」

サノ先生は、涙をぬぐうことなく、続けます。

「娘は、よく反抗しました。幼い頃は、小学校の先生なんか、やめて、家にいて、って。少し大きくなると、小学校の先生なんか大嫌い、と。もっと大きくなると、はっきりいって荒れた状態になりました。その頃が一番、つらかった。自分を責めました。自分は教育者なのに、自分の娘をまともに育てられてないじゃないか、って」

母は、どうあいづちをうって良いか分からず、あまりにも重い告白に、なぐさめの言葉も見つけられず、じっとサノ先生の涙を見つめていたそうです。

サノ先生は、われにかえったような顔をし、いいます。

「ごめんなさい。こんな話をして・・・。当時の感情がよみがえって、つい取り乱してしまいました。でもね、私はこんなにダメな母親なんですが、こんな私の母親生活の最後に、とびきりうれしいこともあったんですよ」

サノ先生は、そこでにっこり笑いました。

「私の二人の娘、今、どうしていると思います？」

たいへん難しいクイズですが、サノ先生のうれしそうな表情から、母はすぐに答えが分かってしまいました。

「まさか・・・」

サノ先生は、ゆっくりうなづきました。

「ええ、そのまさかなんです。二人とも、小学校の先生をしています」

サノ先生の目から、また涙がこぼれます。今度は違う種類の涙です。

母もまた、感動で涙がおさえられず、涙に言葉をつまらせながら、いいます。

「お嬢さんは・・・先生の“生きざま”を・・・一番、近くでごらんになっていたのですものね・・・先生が必死に生きてこられたこと・・・心から尊敬されているのでしょう・・・これが、“親の背中を見て育つ”ということなのですね・・・」

サノ先生は、涙で言葉にならず、ただただうなづいていらしたそうです。

私も母を亡くして以来、５年という歳月が経った今も、母のことを思い出さない日はありません。

その時、思い出すことは、母にこうしてもらった、ああしてもらった、という思い出ではありません。

いつも思い出すのは、母の“生きざま”です。

母が何を考え、何を信じ、何を願い、何を貫いたのか。

母は何をした人だったのか。

母はどう生きたのか。

私の思い出の中の母は、いつも仕事をしています。生徒さんにピアノを教える母。痛む手に包帯を巻きつけて、メソードを執筆する母。建築途中の「ショパンはうす」を見上げる母。夜を徹して時間割を組む母。

私もまた母親となった今、自分の“生きざま”をもっとも見せたい人は、自分の子どもたちです。

「お母さん」という人は、必死に生きる姿を子どもに見せる人なのだと思うのです。　　（江口　彩子）

◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

すでに「発表会のお知らせ」をお配りしています。まだお持ちでない方は、ピアノの担当の先生か、ショパンはうす受付に、ご請求ください。

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

７月２８日（木）・２９日（金）・３０日（土）・３１日（日）
かつしかシンフォニーヒルズ　アイリスホール
（京成線「青砥」駅より徒歩５分）

「かつしかシンフォニーヒルズ」は、一昨年、ピアノ発表会で使用した会場です。音響の良さで定評のあるホールです。

現在、お配りしている「発表会のお知らせ」の中に、「ピアノ発表会・申込み用紙」が入っていますので、ご記入ください。レッスンの際に、「ショパンはうす」受付でご提出いただくか、担当の先生にご提出ください。本部にＦＡＸしていただくのでもけっこうです（本部ＦＡＸ番号：０３－３９５７－８８６４）。

ご提出の〆切は、６月２６日（日）です。

この用紙は、お手数ですが、ご参加になれない方にも提出していただきます。過去に、申込み用紙をお出しになっていない生徒さんを不参加としていたところ、用紙を提出し忘れていただけだった、ということが多くありました。そういった事態を防ぐために、不参加の場合にも、念のため、その旨の意思表示をいただきたいと思っています。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

申込み用紙には、参加希望日も書いていただくようになっています。できるだけ、ご希望にそうようにいたしますが、例年、曜日によって、ご希望人数が極端に偏ってしまうことがありますので、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうぞご理解ください。

お申込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

◆リハーサル・トライをおこないます

例年、暑くなりはじめますと、夏の「ピアノ発表会」が近づいてきたことを実感します。生徒さんは、お忙しい中、練習をがんばってくださっているところでしょう。練習を後押しするイベントとして、今年も「リハーサル・トライ」を予定しています。

くわしくは、「発表会のお知らせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。

「リハーサル・トライ」とは、普段のレッスンのほかに、人前で演奏したり、グランドピアノで演奏したり、別の先生に見てもらったりすることで、演奏にみがきをかけるためのものです。

ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。今年も昨年と同様の方式で、ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、ミニ発表会をします。なるべく、本番と同じ状況を作り、演奏にのぞんでもらうことが目的です。

グループには、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に直接、連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて、混乱させることはありませんので、ご安心ください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておくと、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることで

す。

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」１０３か２０４のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申込みください（発表会のお申し込みとは別に、お申し込みいただく必要があります)。

お申込み〆切は６月１９日（日）です。(日①の方は２６日〆切)。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（０３－５９６６－７７１１・担当：伊藤、矢島)。

◆ひよこちゃんリハーサルにご参加ください

ピアノをまだおはじめになっていない生徒さんには、リトミック発表「ひよこちゃんの１日」にご出演いただきます。

ひよこちゃんにご出演される生徒さんのリハーサルは、すでにご案内していますように、２日、予定しています。お忙しい中、また暑い時期ではありますが、どちらか、あるいは両方、ご都合をつけておこしください。

特に舞台に上がることがはじめての生徒さんは、本番で、びっくりして泣いてしまい、練習してきたことが発揮できないことがあります。リハーサルで、慣れておくことをおすすめします。ご家族の皆さまのご協力を、よろしくお願いいたします。

「ひよこちゃんの１日」のリハーサル

日　時　　７月　３日（日）　　１１：００～１２：００

　　７月１８日（月・祝）　１３：００～１４：００

場　所　　ひ び き ホール　（豊島区南長崎５－８－１２）

◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、７月２７日（水）の８月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆レッスンスタート前の到着時刻について

日ごろ、レッスンに遅れないように、みなさまにはご配慮いただいておりますが、レッスンスタート時間よりもずいぶん早目に到着されていらっしゃる生徒さんもおられ、せっかく早くいらしていただいても、外でお待たせしていることがあるかと思います。教室の開錠は、防犯上のこともあり、各曜日のレッスン開始１５分前ごろになっております。ご協力をよろしくお願いいたします。

◆時節のご挨拶など　ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただいております。どうぞご理解のほど、お願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊　お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後７時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊　ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。